

# 2016 年度 全体保護者会資料 小学部より

西大和学園補習校アーバイン校舎  
全体保護者会資料 ～小学部～

アーバイン校舎教頭 餅田さおり

1. 7月までの学習予定(以下参照)
2. 家庭学習でのご参考に ①「書く力をご家庭でも伸ばすために」 ②より発展的な家庭学習について
3. 海外文芸作品コンクール出品について

\*\*\*\*\*

- 1. 6月から7月までの主な学習予定**  
予定が変更することもありますので、必ず毎週のおたよりを  
ご確認くださいませよう、お願いします。

学年	国語①	国語②	算数	社会
1年	「おもすびころりん」 「わけをはなそう」 『「は」「を」「へ」を つかおう』 「こんなことしたよ」 「おおきなかぶ」	ひらがなとすうじの おけいこ..  終了します。 夏休み明けに 集めます。	・たしざん ・ひきざん ・10よりおおきいかず	
2年	「ともこさんはどこか な」 「スイミー」 「こんなもの見つけた よ」	「漢字の学習」 「頭」まで	・100より大きい数をし らべよう ・時計を生活に活かそ う (「水のかさをはかる う)は9月に学習)	
3年	「気になる記号」 「もうすぐ雨に」 「ありがとう」を伝えよ う。	「漢字の学習」 「写」まで	・たし算とひき算の筆 算 ・あまりのあるわり算 P88 まで	
4年	「新聞を作ろう」 「一つの花」	「漢字の学習」 「末」まで	・四角形を調べよう ・大きな数のしくみ	・事故や事件からくらし を守る (住みよいくらしをつく る) ・水はどこから

## 2016年度 全体保護者会資料 小学部より

5年	「生き物は円柱形」 「きいて、きいて、 きいてみよう」 千年の釘にいどむ	「漢字の学習」 「責」まで	「偶数と奇数、倍数と 約数」まで	・米づくり ・水産業
6年	「森へ」 「ようこそ、私たちの町 へ」	「漢字の学習」 「誤」まで	「角柱と円柱の体積」 まで	「3人の武将と天下統一」～「江戸幕府と政治の安定」 教科書P89 まで
7年	「空を見上げて」 「星の花が降るころに」 「大人になれなかった弟 たちに」	「漢字の学習」 「澄」まで	表現： 作文の書き方 俳句・短歌・川柳 調べたことを報告しよう(P128-132)	近世の日本 (鎖国まで)

※9月10日に、3年生以下は「国語1」と「算数」の前期のまとめテストを全学年行います。

(国語2のまとめテストを行うこともあります。)

※前期まとめ・期末テストの範囲発表日は7月16日です。学年よりお知らせします。なお、4年生以上は全教科の期末テストを行います。

※夏休みに宿題では、音読・絵日記等、各学年より課題が出されます。

※夏休みの宿題配布は7月16日(土)です。当日欠席したお子さんには、翌週配信となります。

### ※家庭学習でご活用を

●NHK Eテレ <http://www.nhk.or.jp/school/>

社会や日本のことについて、小学生向けにわかりやすい動画で観られます。

教科や学年  
から、番組が  
選べます。



国語はもちろん、理科社会や道徳もあります。「総合」では、様々な分野を学習できる動画も配信されています。(保健、防災等)国語教科書での読み物は、日本の歴史的な文化、季節感や自然が題材となったものが多いです。予備知識として知っておいた方が、理解しやすいことがあります。



## ② より発展的な家庭学習について

普段の家庭学習では、本校では午前中という授業時間に合わせた宿題の分量となっております。ご家庭の日本語環境や学ぶ目的、日本語レベルも様々なお子さんが通っている補習校ですので、「最低限これをやっておきましょう」という基本的な内容と分量を設定しています。

時間的に余裕がある場合や、より発展的な家庭学習を望まれるご家庭は、以下のような点に配慮をして進めてみてください。

- ①字を丁寧に書くこと。
- ②問題を解くときに何度も読む。教科書をご家庭にあるノートに写す。(視写といいます。)
- ③漢字の学習ノートで、丁寧に書くことはもちろん、短文づくりで、漢字をたくさん使ったり、文を二つ以上作ったりすることも、文章力アップにつながります。熟語もどんどん使わせてみましょう。漢字の先取り学習も積極的に行ってみてください。

## ●発展教材のご紹介

教科書ぴったリテスト 国語/算数(1-6年)理科(3-6年) 新興出版社

日系書店でも購入可能な教材です。帰国をお考えのご家庭にも適しています。

## ●音読の取り組みで自由音読にも積極的に挑戦を

「今読んだところで、だれが出てきた?」「最後にどうなった?」などと問いかけ、話させてください。より話す力や読み取る力がつきます。自由音読の欄が一杯になるまでにやらせてみるのもいいですね。

「わたしたちの道徳」もご活用ください。子どもたちの心に響く短編が多数記載されております。



